

ハコベのなかま

ハコベのなかまは身近に普通に見られる。冬から春に目立つが他の季節にも生えている。葉は対生で、茎の一方のへりに毛が並んでいる。(p8花,53成長,77茎)



▲コハコベ
空き地や畑に多くて、身近なハコベといえばたいていコハコベだ。



▶イヌコハコベ
近ごろ街なかなどでよく見かける。花びらがなく、がく片の下部に斑紋がある。

イヌコハコベのとげのようなものは何？

茎が2本に分かれる間からとげのようなものが出ている。とげといっても硬くはない。これが何なのか、いくつかの仮説が出される。成長する茎の先端がとげになって終わり、2個の腋芽(えきが)がのびて二またの茎になる。それをくり返して成長するという考え方。とげの先端の花をつけることもあり、これは花柄のようにも見える。ミドリハコベやコハコベにもたまにある。



▲ミドリハコベ 草むらのようなところに多くて、コハコベにくらべて茎はかなり立ち上がり葉はやや大きい。昔からの春の七草のハコベはこれであったであろう。



▲ウシハコベ 全体がほかのハコベより大形で、葉は先がとがる。ほとんど一年中見られる。



▲ウシハコベの花
雌しへの先が5本。



▲ウシハコベの実
花が終わるとがくを閉じて中にたねをつくる。



▲ハコベのたね



◀オランダミミナグサ
20世紀の初めごろ、ヨーロッパから日本に入ってきた草で、いまは道ばたや畑に普通に見られる。(p53成長)

▼ミミナグサ

古くから畑の雑草であったが、オランダミミナグサにくらべるとたいへん少なくなった。葉の形がネズミの耳に似ているからミミナグサだというのが、どうだろうか。



▲ノミノツツリ

ツツリは布をつぎ合わせた着物のこと。なるほどノミの着物のように小さい葉だ。空き地や植え込みなどの地面によく見られる。



▲ノミノフスマ

フスマは寝るときに体にかける布のこと。ノミノツツリよりは葉が大きいのでこんな名がついたのだろう。